

2026年1月8日

株式会社ロイヤリティ マーケティング

## ミラノ・コルティナ 2026 オリンピック・パラリンピックへの興味・観戦意向に関する調査

オリンピック観戦意向は約6割で、前冬季大会の“観戦した”を超える  
～最注目競技の1位は、オリンピックが「フィギュアスケート」、  
パラリンピックが「スノーボード」～

共通ポイントサービス「Ponta(ポンタ)」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング(本社: 東京都渋谷区、代表取締役社長: 勝 文彦、以下「LM」)は、2026年冬にミラノとコルティナ・ダンペツツオで開催されるオリンピック・パラリンピックについて、興味や観戦意向を調査した結果をご報告いたします(実施期間: 2025年10月31日~11月7日)。本調査は「Pontaリサーチ」を利用して、10代から70代以上の20,643名に聴取しました。

### 【主な調査結果】

#### ▶ 国際的なスポーツ大会・北京2022冬季オリンピック・パラリンピックの観戦状況

- ・開催時に観戦する国際的なスポーツ大会は、1位「オリンピック」、2位「WBC」、3位「サッカーワールドカップ」
- ・北京2022冬季オリンピック・パラリンピックを観戦した人は46.1%

#### ▶ ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックへの興味、観戦意向

- ・オリンピックに「興味あり」は57.7%、パラリンピックは35.1%
- ・オリンピックの観戦意向は約6割で、高年層ほど意向が高い。パラリンピックは約4割

#### ▶ ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックを観戦したい理由

- ・観戦したい理由は、1位「日本代表を応援したいため」、2位「4年に1度の大きな大会のため」、3位「一流選手のプレーを見るため」

#### ▶ ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックの注目競技と注目理由

- ・最注目競技は、オリンピックでは1位「フィギュアスケート」が突出して高く、2位「スキージャンプ」、3位「スピードスケート」が続く。パラリンピックでは1位「スノーボード」、2位「アルペンスキー」、3位「アイスホッケー」
- ・フィギュアスケートへの注目理由は、「競技姿に感動するため」が最多。メダル獲得への期待は、スキージャンプ・スピードスケートにおいて高い

＜価値観マーケティング支援サービス「PERSONA+」による価値観分析＞

#### ▶ オリンピックへの観戦意向×価値観

- ・オリンピックの観戦意向は“外向的”および“コミュニティ重視”的価値観タイプにおいて高い

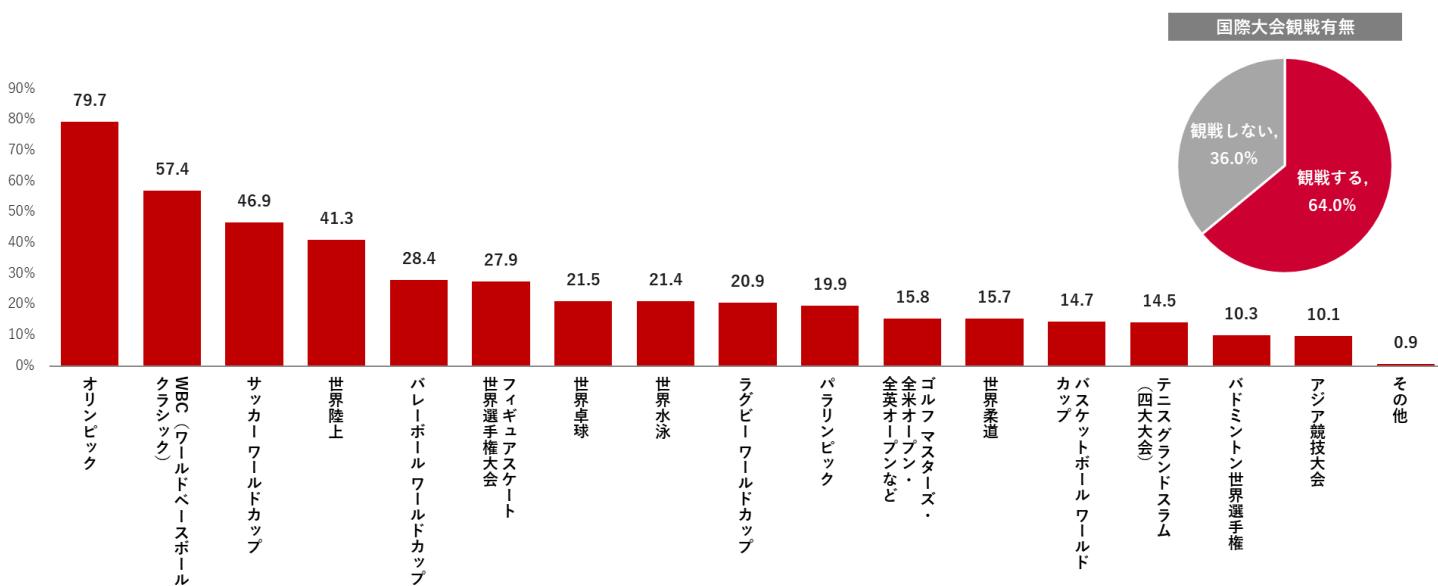
## 【調査結果詳細】

## ■国際的なスポーツ大会の観戦状況

開催時に観戦する国際的なスポーツ大会は、1位「オリンピック」、2位「WBC」、3位「サッカーワールドカップ」

国際的なスポーツ大会の普段の観戦状況について、観戦する層は64.0%、観戦しない層は36.0%だった。観戦する層が普段観戦している大会は、1位「オリンピック」(79.7%)となり、2位の「WBC (ワールドベースボールクラシック)」(57.4%)と比べて、22.3ポイント高かった。3位「サッカーワールドカップ」(46.9%)、4位「世界陸上」(41.3%)が続いた。「パラリンピック」は19.9%で10位だった。

▼観戦する国際的なスポーツ大会（観戦する層 n=13,211）、国際的なスポーツ大会の観戦有無（n=20,643）

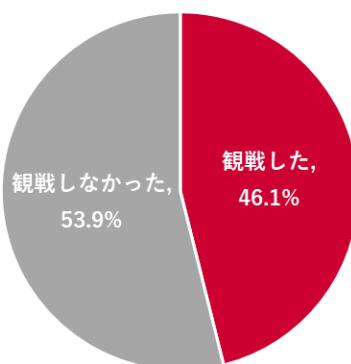


## ■北京オリンピック・パラリンピックの観戦状況

北京 2022 冬季オリンピック・パラリンピックを観戦した人は 46.1%

前回の冬季大会の北京オリンピック・パラリンピックの観戦状況を伺ったところ、全体で「観戦した」は46.1%、「観戦しなかった」は53.9%と、およそ半々だった。

▼北京オリンピック・パラリンピックの観戦状況（n=20,643）※ニュースで試合結果を見た場合は観戦に含めず聴取



## ■ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックへの興味

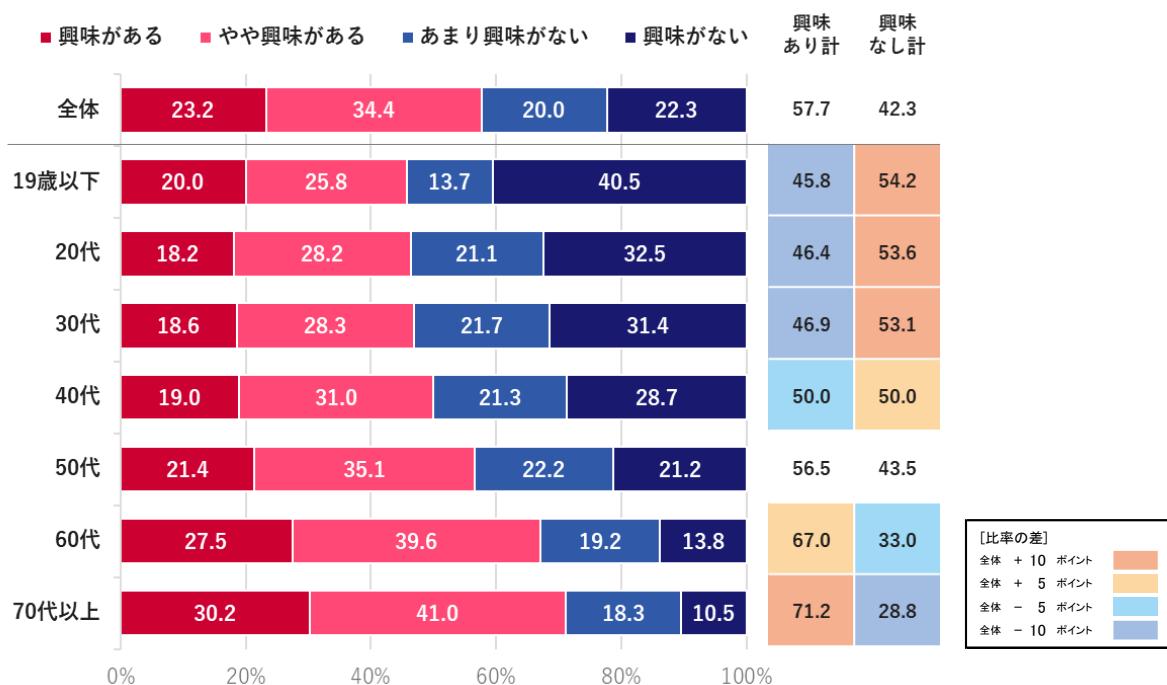
### ミラノ・コルティナオリンピックに「興味あり」は57.7%、パラリンピックは35.1%

ミラノ・コルティナオリンピックに対する興味を聴取したところ、全体で「興味がある」は23.2%、「やや興味がある」は34.4%となり、興味あり派が57.7%だった。年代別で見ると年代が上がるほど興味あり派が多く、10代が45.8%、70代以上が71.2%と25.4ポイント差だった。当社が2024年5月に実施したパリ2024夏季オリンピック調査では、興味あり派が全体で57.4%となっており、比較して大きな差はなかった。

また、ミラノ・コルティナパラリンピックでは、全体で「興味がある」が8.9%、「やや興味がある」が26.1%となり、興味あり派は35.1%だった。年代別で見ると、興味あり派は30~60代では約3割、10代、20代、70代以上では約4割だった。パリ2024夏季パラリンピック調査では、興味あり派が全体で37.6%となっており、今回は2.5ポイント減少していた。

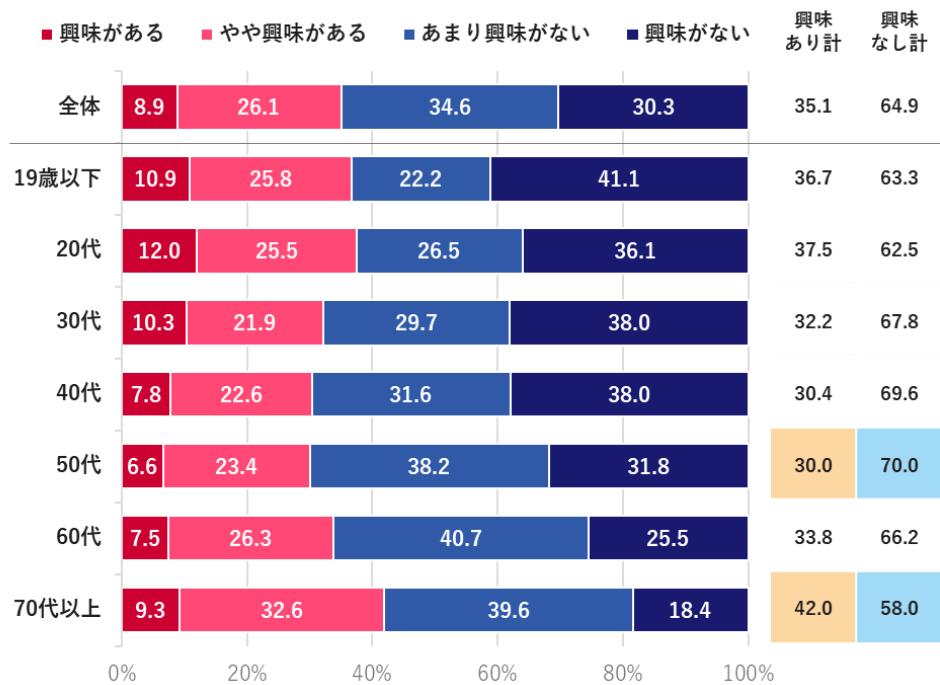
#### ▼ミラノ・コルティナオリンピックへの興味 | 年代別 (n=20,643)

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります

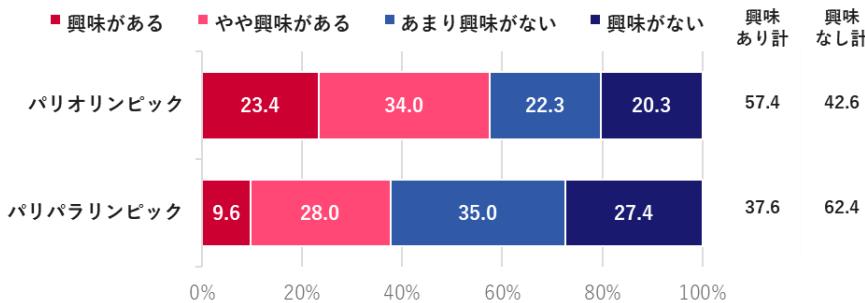


## ▼ミラノ・コルティナパラリンピックへの興味 | 年代別 (n=20,643)

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります



## ▼参考 前回調査) パリオリンピック・パラリンピックへの興味 (n=20,555) (調査期間: 2024年5月10日~5月17日)



## ■ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックの観戦意向

ミラノ・コルティナオリンピックの観戦意向は約6割で、高年層ほど意向が高い。パラリンピックは約4割

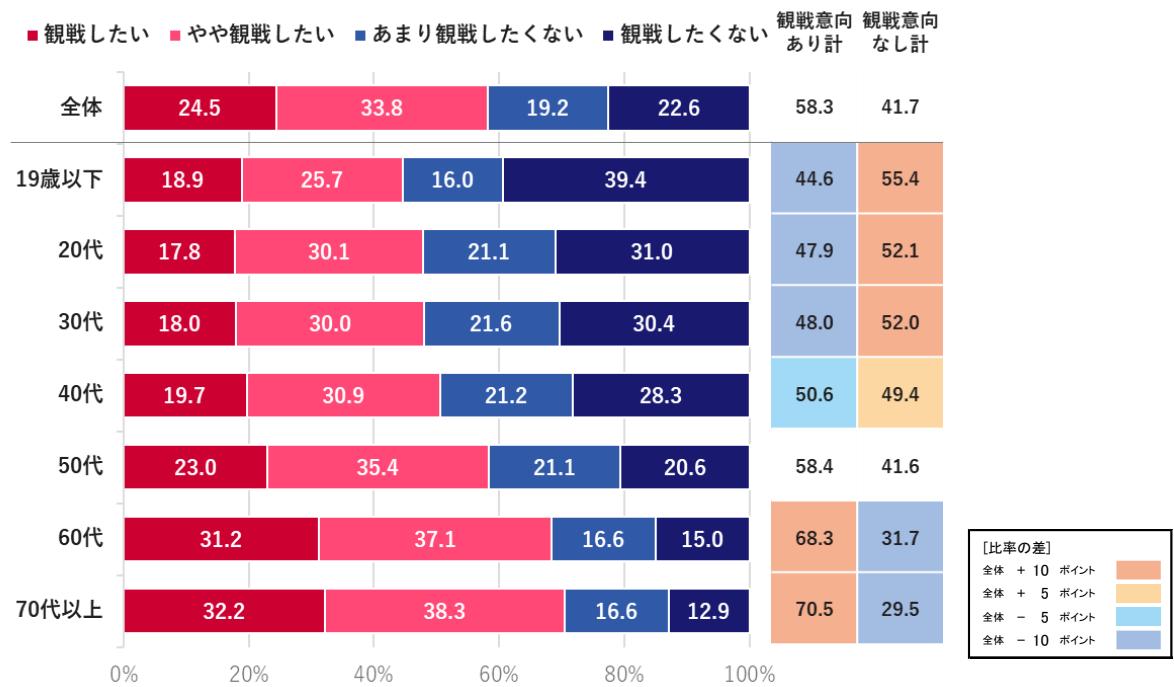
ミラノ・コルティナオリンピックの観戦意向を聴取したところ、全体で「観戦したい」が24.5%、「やや観戦したい」が33.8%となり、合わせると58.3%だった。年代別で見ると、観戦意向は年代が上がるほど高く、70代以上が70.5%だった。パリ2024夏季オリンピック調査では、観戦意向ありが全体で60.0%となっており、今回1.7ポイント減少した。

ミラノ・コルティナパラリンピックの観戦意向は、全体で「観戦したい」が10.4%、「やや観戦したい」が27.9%となり、合わせると38.3%だった。年代別で見ると、観戦意向ありが、20代と70代以上が40%を超えた。パリ2024夏季パラリンピック調査では、観戦意向ありが全体で42.5%となっており、今回4.2ポイント減少した。

また、国際的なスポーツ大会の観戦有無別で見ると、スポーツ大会を観戦している層において、オリンピック観戦意向が82.2%(全体より23.9ポイント高い)、パラリンピック観戦意向が53.4%(全体より15.1ポイント高い)と高かった。普段からスポーツ大会を観戦する人ほど、オリンピック・パラリンピックともに観戦意向が高いことがうかがえる。

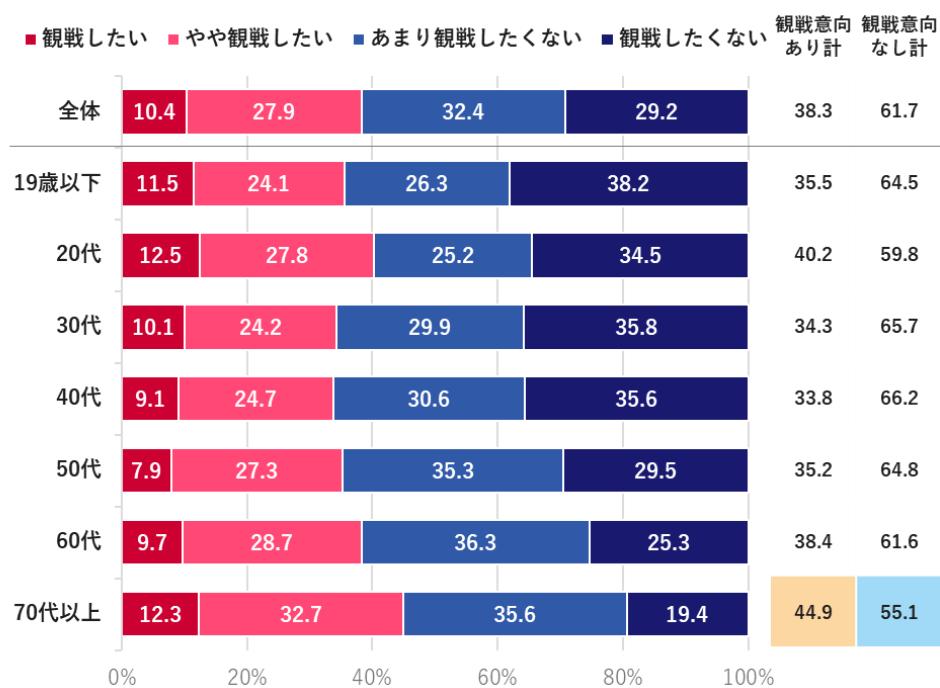
▼ミラノ・コルティナオリンピックの観戦意向 | 年代別 (n=20,643)

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります



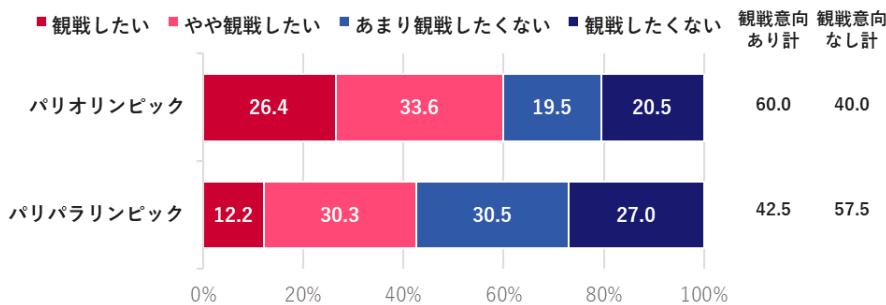
▼ミラノ・コルティナパラリンピックの観戦意向 | 年代別 (n=20,643)

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります



## ▼参考 前回調査) パリオリンピック・パラリンピックの観戦意向 (n=20,555)

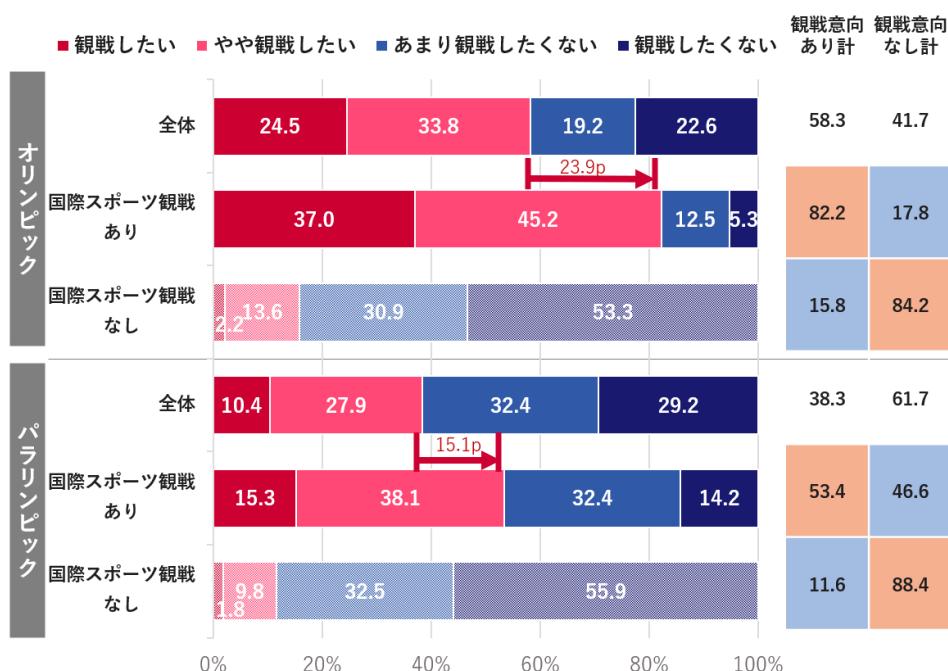
(調査期間：2024年5月10日～5月17日)



## ▼ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックの観戦意向 | 国際的なスポーツ大会の観戦有無別

(全体 n=20,643、国際スポーツ観戦あり n=13,211、観戦なし n=7,432)

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります

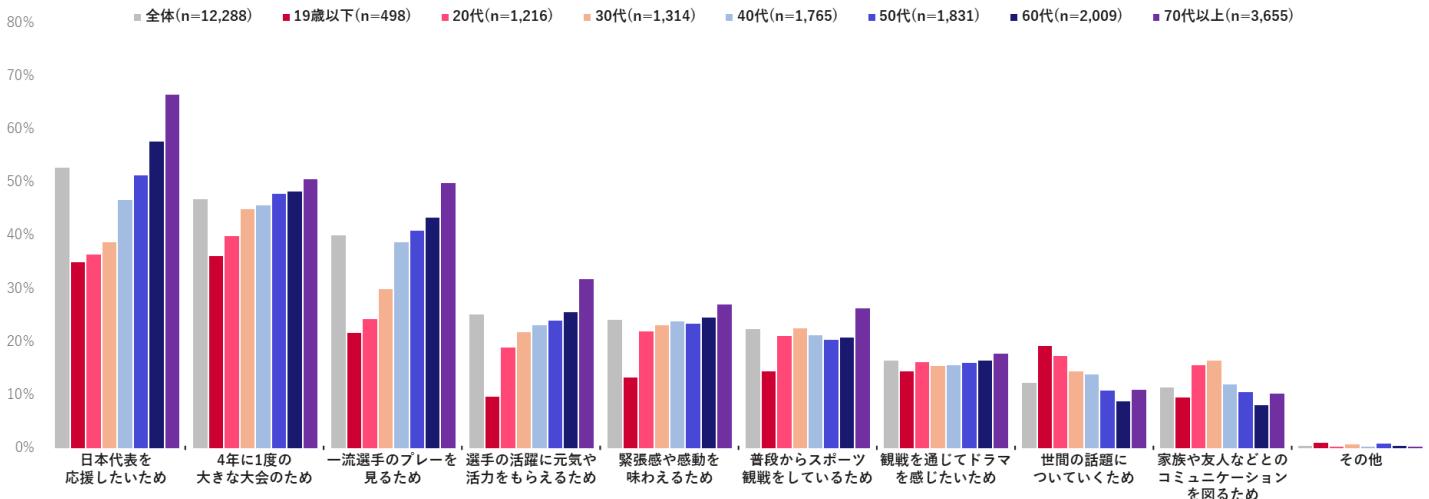


## ■ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックを観戦したい理由

観戦したい理由は、1位「日本代表を応援したいため」、2位「4年に1度の大きな大会のため」、3位「一流選手のプレーを見るため」

ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックの観戦意向がある方に、観戦したいと思う理由を聴取した。全体で、1位「日本代表を応援したいため」、2位「4年に1度の大きな大会のため」、3位「一流選手のプレーを見るため」だった。年代別で見ると、上位3位の理由いずれも年代が上がるほど高くなり、特に1位の「日本代表を応援したいため」は、10代の35.3%に対し、70代以上は66.7%と30ポイント以上高かった。若年層の方が高い傾向となったのは「世間の話題についていくため」で、10代、20代が約2割だった。

## ▼ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックを観戦したい理由 | 年代別 (%)



	日本代表を応援したいため	4年に1度の大きな大会のため	一流選手のプレーを見るため	選手の活躍に元気や活力をもらえるため	緊張感や感動を味わえるため	普段からスポーツ観戦をしているため	観戦を通じてドラマを感じたいため	世間の話題についていくため	家族や友人などのコミュニケーションを図るため	その他
全体	52.9	47.1	40.3	25.4	24.3	22.6	16.7	12.5	11.6	0.7
19歳以下	35.3	36.4	22.0	9.8	13.5	14.6	14.6	19.5	9.7	1.2
20代	36.6	40.1	24.5	19.2	22.1	21.3	16.5	17.6	15.8	0.5
30代	39.0	45.1	30.2	22.0	23.3	22.8	15.7	14.6	16.7	0.9
40代	47.0	45.8	39.0	23.3	24.0	21.5	15.8	14.0	12.2	0.4
50代	51.5	48.1	41.1	24.2	23.6	20.6	16.2	11.1	10.8	1.0
60代	57.9	48.5	43.6	25.8	24.7	21.0	16.7	9.0	8.3	0.7
70代以上	66.7	50.9	50.1	32.0	27.2	26.6	18.0	11.1	10.5	0.6



## ■ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックの注目競技

最注目競技は、オリンピックでは1位「フィギュアスケート」が突出して高く、2位「スキージャンプ」、3位「スピードスケート」が続く。パラリンピックでは1位「スノーボード」、2位「アルペンスキー」、3位「アイスホッケー」

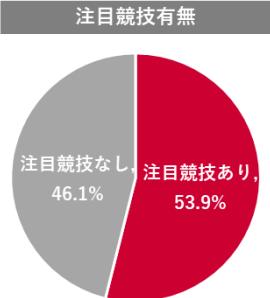
ミラノ・コルティナオリンピックで注目している競技を複数回答で聴取したところ、1位「フィギュアスケート」(31.0%)、2位「スキージャンプ」(27.6%)、3位「スピードスケート」(23.2%)だった。注目競技のうち、最も注目している競技を单一回答で伺ったところ、トップ3の順位は変わらず、1位が「フィギュアスケート」で約2割を占めて、注目度の高さがうかがえた。2位「スキージャンプ」(9.7%)、3位「スピードスケート」(5.0%)が続いた。注目競技としては15位だった「アイスホッケー」が4位に入った。新種目の「山岳スキー」は注目競技では28位、最注目競技では15位だった。また、注目している競技がないという回答は46.1%だった。

ミラノ・コルティナパラリンピックで注目している競技を複数回答で聴取したところ、1位は「スノーボード」(15.8%)、2位「アルペンスキー」(13.8%)、3位「アイスホッケー」(11.6%)だった。最も注目している競技についても、上位3位の順位は変わらなかった。また、注目している競技がないという回答は65.4%だった。

注目競技の有無について、パリ 2024 夏季大会調査では、「注目競技なし」が全体でオリンピックが 36.7%、パラリンピックが 55.0% だった。大会の観戦意向については、夏季大会と冬季大会での大きな差は見られなかったものの、冬季のスポーツ種目への注目度は低い傾向が見られた。

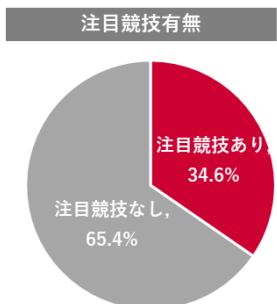
▼ミラノ・コルティナオリンピックの注目競技 (%) ※上位 15 位を抜粋（いずれの競技も注目していないを除く）(n=20,643)

最注目競技 ランキング	注目競技 ランキング (複数回答)	競技名	最注目競技 (数値)	注目競技 (数値)
1	1	フィギュアスケート	18.3	31.0
2	2	スキージャンプ	9.7	27.6
3	3	スケート   スピードスケート	5.0	23.2
4	15	アイスホッケー	3.3	8.1
5	5	カーリング	3.3	14.0
6	4	スノーボード   ハーフパイプ	3.2	14.5
7	7	アルペンスキー   スラローム（回転）・ジャイアントスラローム（大回転）	2.2	11.3
8	6	スノーボード   ビッグエア	1.4	12.3
9	10	アルペンスキー   スーパーG（スーパー大回転）	1.1	9.5
10	12	アルペンスキー   ダウンヒル（滑降）	1.0	9.1
11	9	スキー   ノルディック複合	0.7	10.2
12	8	スケート   ショートトラック	0.7	10.9
13	11	スノーボード   パラレル大回転	0.6	9.1
14	14	フリースタイルスキー   モーグル・デュアルモーグル	0.5	8.1
15	28	山岳スキー	0.4	2.1
-	-	いずれの競技も注目していない	46.1	46.1



▼ミラノ・コルティナパラリンピックの注目競技 (%) (いずれの競技も注目していないを除く) (n=20,643)

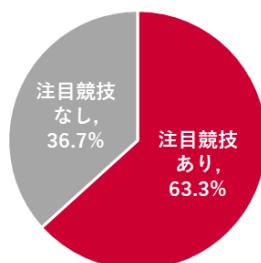
最注目競技 ランキング	注目競技 ランキング(複 数回答)	競技名	最注目競技 (数値)	注目競技 (数値)
1	1	スノーボード	11.0	15.8
2	2	アルペンスキー	8.5	13.8
3	3	アイスホッケー	7.1	11.6
4	5	車いすカーリング	3.8	7.2
5	4	クロスカントリースキー	3.3	8.3
6	6	バイアスロン	1.0	4.0
-	-	いずれの競技も注目していない	65.4	65.4



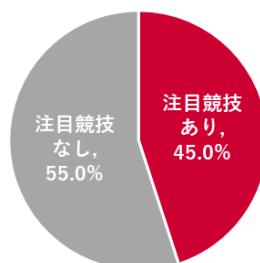
▼参考 前回調査) パリオリンピック・パラリンピックの注目競技有無 (n=20,555)

(調査期間：2024 年 5 月 10 日～5 月 17 日)

パリオリンピック



パリパラリンピック



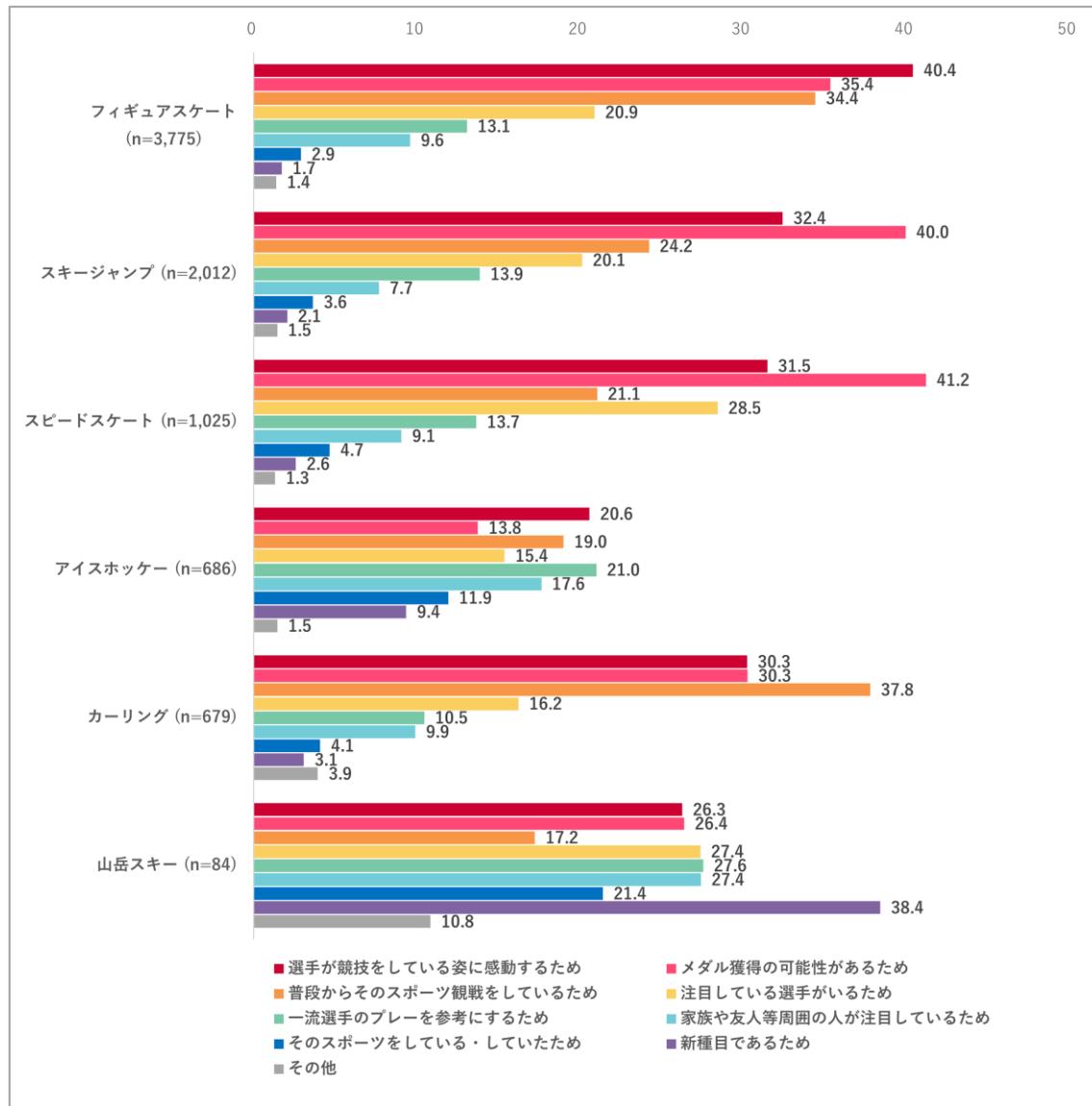
## ■最も注目している競技を選んだ理由

フィギュアスケートへの注目理由は、「競技姿に感動するため」が最多。メダル獲得への期待は、スキージャンプ・スピードスケートにおいて高い

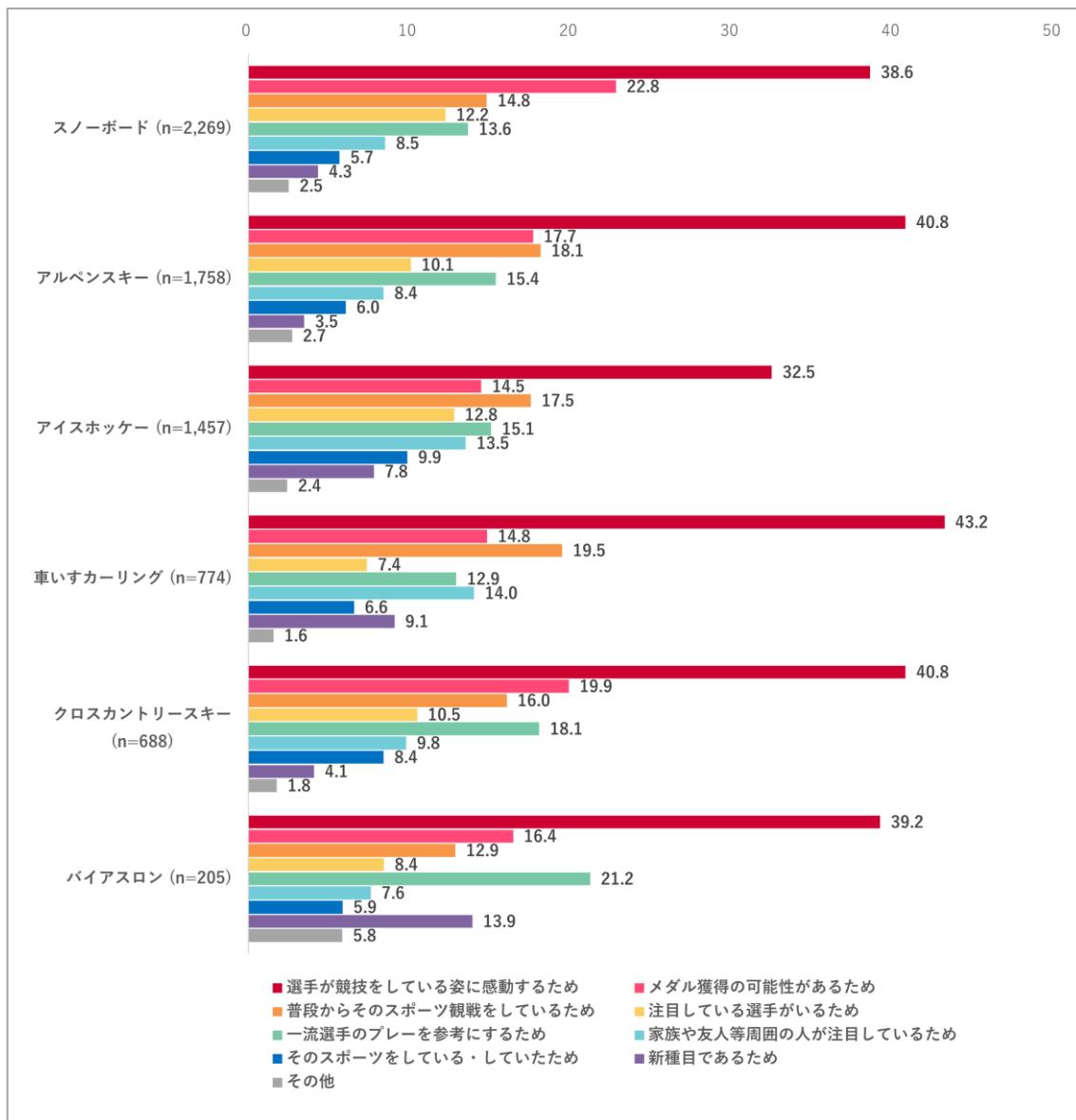
ミラノ・コルティナオリンピックにおいて、最も注目している競技を選んだ理由を聴取した。最注目競技の上位5位と、新種目の山岳スキーについて、聴取理由を集計した。フィギュアスケートは「選手が競技をしている姿に感動するため」が最多で約4割だった。「メダル獲得の可能性があるため」「普段からそのスポーツ観戦をしているため」が3割台で続いた。スキージャンプ、スピードスケートは「メダル獲得の可能性があるため」が最多の約4割だった。また、アイスホッケーは上位の競技と比べて「一流選手のプレーを参考にするため」(21.0%)、「そのスポーツをしている・していたため」(11.9%)が高く、競技経験者の支持を集めている様子がうかがえる。カーリングは「普段からそのスポーツ観戦をしているため」、山岳スキーは「新種目であるため」が高い点が特徴であった。

またパラリンピックの最も注目している競技を選んだ理由も聴取した。いずれの競技も「選手が競技をしている姿に感動するため」が最も多かった。「メダル獲得の可能性があるため」については、「スノーボード」が22.8%で高かった。

▼ミラノ・コルティナオリンピックの最注目競技の選択理由（%）※最注目競技の上位5位と新種目「山岳スキー」を抜粋



## ▼ミラノ・コルティナパラリンピックの最注目競技の選択理由（%）



## ■オリンピック・パラリンピック観戦時のフードデリバリーとテイクアウトの利用意向

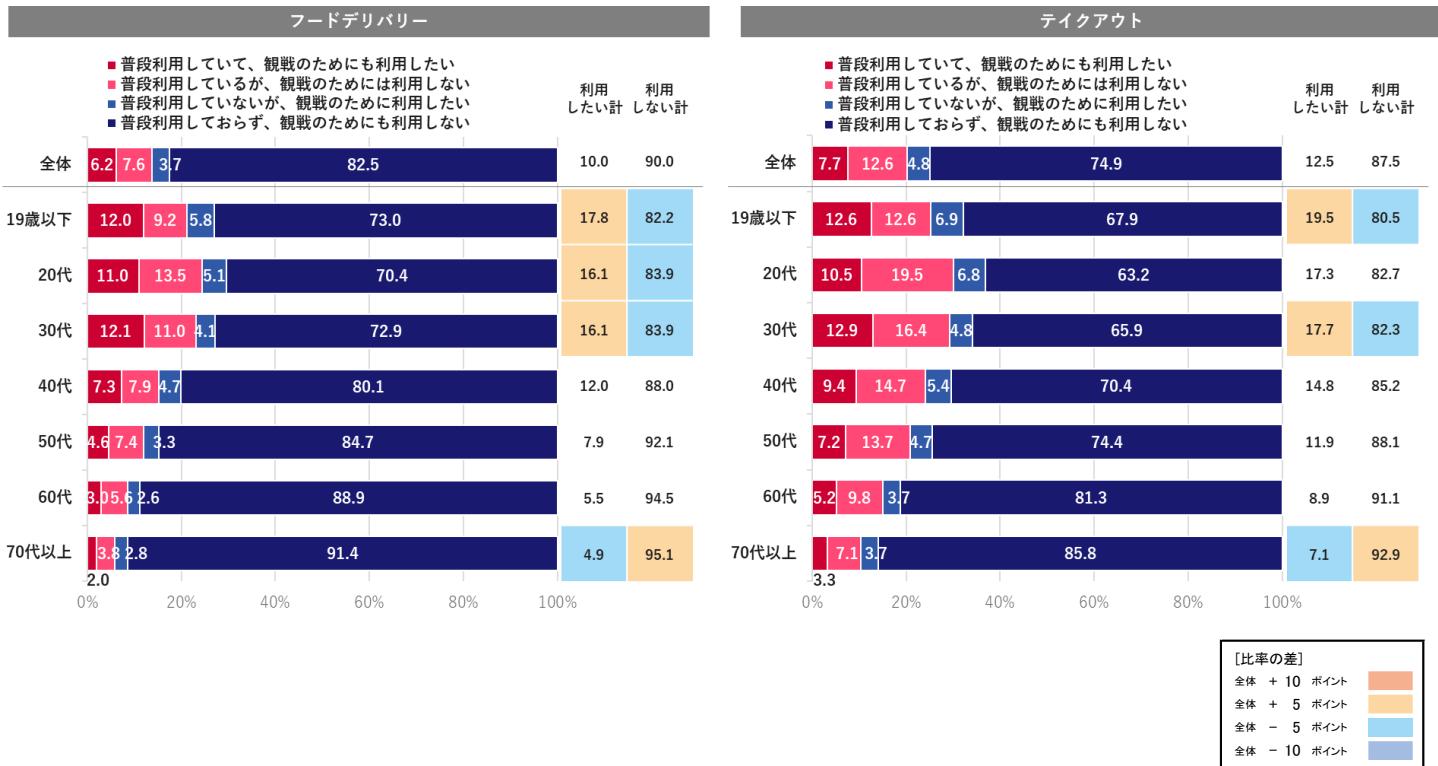
観戦時のフードデリバリー、テイクアウトの利用意向は、10代～30代において高く2割弱

ミラノ・コルティナオリンピック・パラリンピックの観戦時のフードデリバリーの利用意向について、全体で「普段利用していて、観戦のためにも利用したい」(6.2%)、「普段利用していないが、観戦のために利用したい」(3.7%)となり、利用意向ありは10.0%だった。若年層において利用意向が高く、10代は17.8%、20代・30代は16.1%だった。

またテイクアウトの利用意向については、全体で12.5%だった。フードデリバリーと同様に若年層の利用意向が高く、10代は19.5%、20代は17.3%、30代は17.7%だった。フードデリバリー、テイクアウトともに、“普段利用している”との回答が10代～30代において高く、サービスが身近である様子がうかがえる。

▼フードデリバリー＆テイクアウトの普段の利用状況とオリンピック・パラリンピック観戦時の利用意向 (n=20,643)

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります



**PERSONA+による価値観分析**

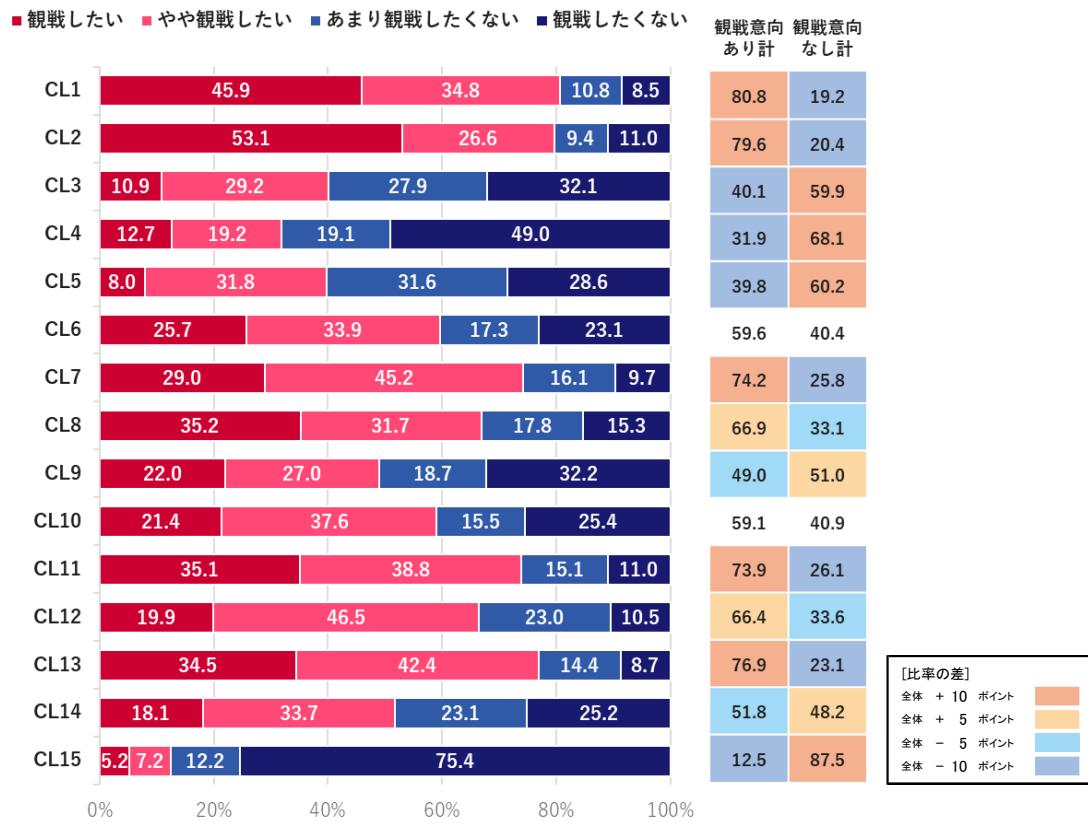
■オリンピックへの観戦意向

オリンピックの観戦意向は、“外向的”および“コミュニティ重視”の価値観タイプにおいて高い

LMが提供する価値観マーケティング支援サービス「PERSONA+」を用いて、価値観別にオリンピックへの観戦意向を分析した。観戦意向が最も高かったのはCL1「こだわり重視のリーダータイプ」(80.8%)、次いでCL2「情報感度が高いトレンドリーダータイプ」(79.6%)だった。外向性の強い層において、特に観戦意向の高さがうかがえる。また、CL13「コミュニティ重視の安定志向タイプ」も80%弱と高かった。社交的で人との交流を重視するタイプであり、世間の話題になる4年に1度という大会に注目している様子がうかがえる。

## ▼ミラノ・コルティナオリンピックの観戦意向 | 価値観別 (n=20,643)

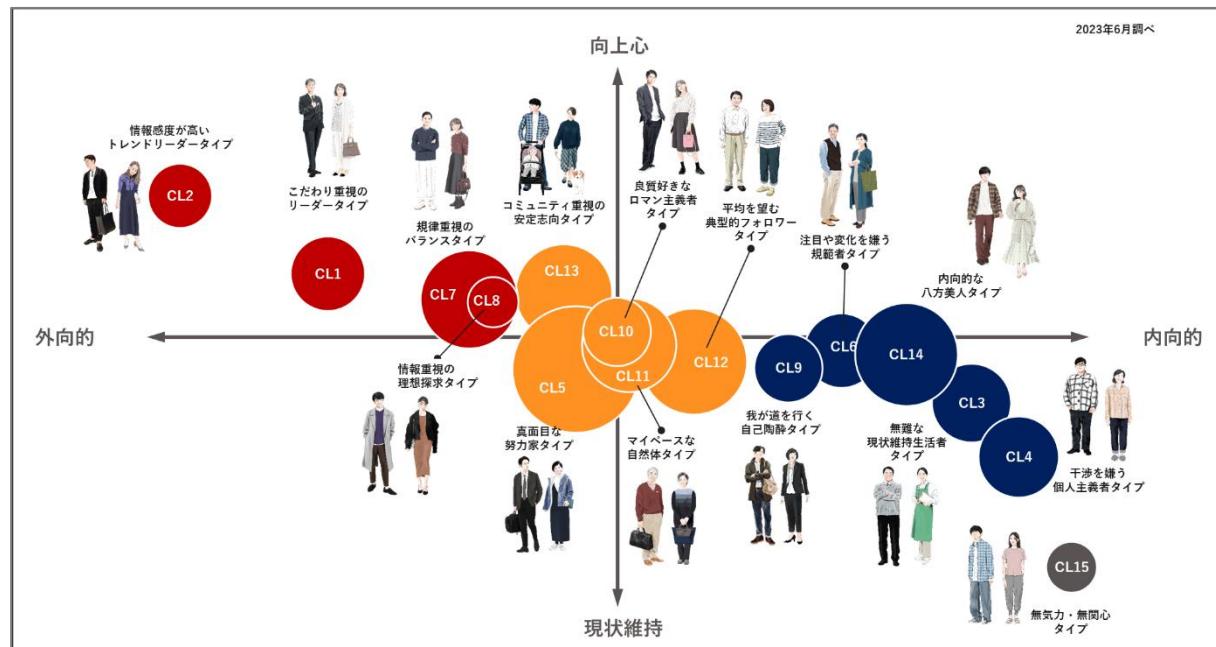
※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります



※ご参考：価値観マーケティング支援サービス「PERSONA+」について

「PERSONA+」では独自の価値観判別ロジックで、性格や仕事観・消費・食などあらゆる価値観に関するデータを基に生活者の価値観を15クラスターに分類してペルソナを作成し、プロファイリングが可能です。

## ▼価値観クラスターのポジショニングマップ



### 【調査概要】

- 調査方法 : インターネット調査  
 調査期間 : 2025年10月31日～11月7日  
 パネル : 「Ponta リサーチ」会員  
 (Ponta 会員で「Ponta リサーチ」の会員登録をしていただいている方)  
 調査対象 : 国内在住10代～70代以上の方  
 有効回答数 : 20,643名

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。合計しても100%にならず、小数点以下で誤差が出る場合があります

※「令和2年国勢調査」(総務省統計局)の性年代別人口構成比を基に、ウエイトバック集計を実施

### ▼ウエイトバック後のn数

年代	N	価値観クラスター	N
19歳以下	1060	CL1 こだわり重視のリーダータイプ	1976
20代	2360	CL2 情報感度が高いトレンドリーダータイプ	900
30代	2640	CL3 無難な現状維持生活者タイプ	916
40代	3408	CL4 干渉を嫌う個人主義者タイプ	1235
50代	3099	CL5 真面目な努力家タイプ	2907
60代	2913	CL6 注目や変化を嫌う規範者タイプ	961
70代以上	5163	CL7 規律重視のバランスタイプ	1517
全体	20643	CL8 情報重視の理想探求タイプ	508
		CL9 我が道を行く自己陶酔タイプ	981
		CL10 良質好きなロマン主義者タイプ	714
		CL11 マイベースな自然体タイプ	2228
		CL12 平均を望む典型的フォロータイプ	2076
		CL13 コミュニティ重視の安定志向タイプ	1255
		CL14 内向的な八方美人タイプ	1427
		CL15 無気力・無関心タイプ	1042
		全体	20643

### 【引用・転載の際のクレジット表記のお願い】

調査結果引用・転載の際は、「Ponta リサーチ」調べとクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

以上